

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～



令和4年度 第22号
令和5年2月6日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-4343

県南部の鋸南町では、頼朝桜(河津桜)が開花したとのニュースを目にした。温暖な千葉県ならではの、一足早い春の知らせだ。

立春も過ぎて、暦は春。これから次々と、全国から春の便りが届くのだろう。新宿公園の桜の枝先には、まだまだ茶色く硬い蕾がいくつも芽を出し、膨らむ準備をしていた。

恋待蕾 ～落の臺の思い出～

二月の誕生色は落の臺の若芽のような淡い黄緑色だそうです。落の臺は、いわば「落」の蕾です。

「落」の葉の茎の方は食用とされていますが、「落の臺」もてんぷらにして食べますね。あの、ほろ苦い味を思い出された方も、多いのではないのでしょうか。

蕾ができて、「明日は咲くかな、明日は咲くかな…」と心待ちにします。恋の蕾、夢の蕾、どんな蕾でも、心に、ほんのり、あかりをともしてくれるものです。

まだまだ寒い季節に、冷たい土を持ち上げて、ひょっこり顔をのぞかせる落の臺は、背伸びして恋を夢見る蕾のよう。

たとえ、ほろ苦い思い出になったとしても、蕾の心は、ずっと後になって、いとおしく思い出されるものです。(山下景子「美人の日本語」より)

主催事業報告

「LGBT+をもっと知る講座」1月23日(金)

「レインボー千葉の会」共同代表で、今は女性として生きる方の講演でした。「LGBTQ」「性的少数者」「性的マイノリティ」(呼び方は様々なようです)について、「基礎知識と当事者の抱える困難」をテーマにお話を伺いました。



「LGBT」とは、『恋愛対象は異性で、自身の性別に違和感がない人』以外の人々を指す言葉です。セクシャルマイノリティを語る時、『性自認』『性的指向』『性別表現』『身体の性』の各要素が、男性に向くのか女性に向くのか、またどちらでもな

かったり、どちらなのか自分でも判らない、といったこともあるのです。「LGBTQ+」と書くのはそのためです。ひとくくりにはできないことなのです。

2001年、テレビドラマシリーズ「3年B組金八先生」でこの問題は取り上げられていました。主人公の上戸彩さんが自分の性に悩み、ある日学ランを着て登校するシーンは衝撃的でした。ドラマの中の誇張した演出だろう、などとお気楽に見ていた記憶ですが、それから20年以上過ぎた現代では、テレビの中の話ではなく、世界規模、日本でも、身近な社会でも起きていることです。「生きづらい」と感じて生活している人々が少なからずいることを知らなければいけません。学校においても、制服の見直しが進んでいて、女子にはスカートとスラックスの形が用意されるところが多くなってきました。リボンではなくネクタイもです。

この学校制服問題にしてもそうであるように、様々な場所、場面での「性の多様性」の理解を深めなければいけない時代です。「男性の育児休暇」についても議論されています。学校や職場での会話の中にも、差別や偏見などがないように「LGBTQ」の基礎的な知識を学ぶことや、その正しい理解に努めなければならないのです。

ランドセルの色は？、髪の毛の長さは？、男らしさ？女らしさ？…当たり前だろうと普通に考え、感じていたことについて、「ひとりひとり違うもの」ととらえなければいけません。まずは、理解しようと努力しなければいけないと思っています。

千葉市からでているパンフレット「LGBT について考えてみよう」が受付横にありますので、一度手に取ってみてください。

主催事業 参加者大募集

2月15日(水) 新宿公民館 10:00～12:00

「スッキリ! 楽しく衣替え 衣類の整理収納術」

*まもなく迎える春。三寒四温の悩ましい日も続きますが、そろそろ衣替えのタイミングを考え出すのではないのでしょうか。重いコートや分厚いセーター類を少しずつ衣装ケースに畳んだりクリーニングに出したりと、一大イベントですよね。



そんなときのヒントを教えてください。はずです。苦手なあなた、どうぞ受講してみてください。



千葉市民芸術祭

3月4日(土)~26日(日)

市政だよりからを見つけました。新宿公民館で活動している詩吟や詩舞、能楽、茶会、演劇などのサークルに関わりのある会や公演、イベントも開催が予定されています。市政だより8ページをご覧ください。出てきてみてはいかがでしょう。

確認はできていますか？

前号でも載せましたように、クラブ連絡会代表者会議が3月11日(土)午前10時より開催されます。会則の変更と新役員を選出が主な内容となりますので、サークル内で話し合ってください、1名の参加をお願いします。

レターケースに案内プリントが入っていますので必ずご確認ください。

鍵の返却を確実に

公民館の部屋の使用に当たっては、先月末より受付で鍵をお渡しし、使用後は原状復帰をして、お帰りの際に利用報告書と鍵を返却してもらうようになりました。

コロナ対策のため鍵の受け渡しを行っていない期間が3年ほどありましたので、まだ慣れないこともあろうかと思えます。部屋を空けましたら、鍵をドア付近のフックにかけていただき、ポケットなどに入れて持ち帰るようなことのないようお気を付けください。

今日の公民館



裏庭に水仙が一輪、堂々として真っすぐに。プランターにはチューリップの芽が。すくすくと成長中。

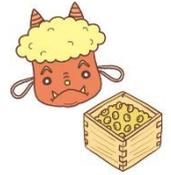


季節の日本語

おにやらい
鬼遣 ~鬼は外、福は内~

鬼は恐ろしいものといっても、昔話の中で出てくる鬼は、どこか、ユーモラスで人間的な親しみが

ありますね。鬼の目にも涙、心を鬼にする、鬼が笑う、鬼の霍乱^{かくらん}……。鬼のつく言葉にも、それが表れているような気がします。



「鬼」の語源は「隠^{おん}」です。隠れていて見えないものを人は恐れ、「鬼」という怪物にしたてていったのでしょう。

鬼遣は、追儼^{ついな}とも呼ばれる、鬼を追い払う儀式のことです。今では節分の行事として定着しましたが、昔は大晦日の行事でした。

姿が見えないから怖い、よくわからないからいやだ……。そんなものですね。「鬼は外」と叫びながら、敬遠している物をよく見えるところへ開放してやる。そうすれば、それが福となって帰ってくるのかもしれない。 (山下景子「美人の日本語」より)

(今週は、もうひとつ)



はなびらゆき
花卉雪 ~幸福が降ってくる~

雪を花にたとえた言葉は、たくさんあります。

そのまま「雪の花」、六角形の結晶の形から「六つの花」、天からの花という意味で「天花^{てんか}」。そして、大粒のはらはら舞い落ちる雪が花卉雪です。

「牡丹雪^{ぼたん}」も、大粒の雪を牡丹の花に見たてたものですね。

降る雪の姿は、本当に生命があるようです。その美しさを、雪見をして楽しんだりもしました。

雪の多い地方では、そんなのんきなこともいってはおられないでしょうけど、雪の多い年は豊作ともいわれます。

「瑞花^{ずいか}」は、めでたい花という意味で、豊作の兆しとなる花のことをいいました。つまり、雪のことなのです。

この冷たい一片、一片が、いつか、本当の幸せの花に変わりますように……。 (山下景子「美人の日本語」より)

立春の朝 隣家には 福の豆

・・・「鬼は一、そと・・・」、いくつ食べたかな
ぬるむ春 夕焼け空が 残る帰途

・・・日が伸びたなあ・・・

枝先の 硬い蕾を じっと見る

・・・少しは膨らんだかな・・・



(新宿公民館 館長 迎 浩二)